

挑戦問題 第28回 「左右が逆転しない鏡」 ～ ファッション業界では常識です！ ～

子供のころ、自分の声を録音したとき、自分の声ではない、なじみのない「自分の声」がスピーカーから聞こえてびっくりしたものです。これは、自分の声を体の中を伝わってくる音と重ねて耳が聞いているからです。録音された「自分の声」は空気中を伝わってくる声ですので、違いが生じるのです。

最近、ファッション業界で使われたグッズに「左右が逆転しない鏡」があります。自分の姿を見るとき、普通の鏡で見ると、鏡に映っている「自分の姿」は偽りの姿で、左右が逆転した「自分の姿」が見えているに過ぎないのです。人間の姿は左右がほぼ対象ですので、とりあえずは支障はないともいえるのです。しかし、これでは他人から見た自分の姿として正確に反映されたものではありませんね。

ファッション業界では、左右非対称のものも多くあります。人間の顔も厳密には左右が非対称であるのが普通です。髪型などは、左右対称なのは「ちびまる子」のヘアースタイルだけで、ほとんどが左右が非対称になっているはずですよ。

このようなことから、ファッション業界では、「左右が逆転しない鏡」を導入することがお客様の信頼を得ることにつながるのです。

ここで、今回の挑戦問題は「左右が逆転しない鏡」とはどのような鏡なのでしょう。この鏡がどのような仕組みにより実現されているかを答えることです。

なお、投稿は、元になる考え方を説明し、具体的な方法を示してください。皆さんのエレガントなアイデアを求めます。受付は先着順に、正解者3名で終了です。

なお、投稿原稿は論文形式で論理的に書かれていないものは、ボツ投稿となります(経験者はわかるでしょうね)。ボツ投稿の積み重ねが名前を残す道ですので、そのつもりで投稿してくださいね。

※ この問題のレポートは、どのようにして求めたのか「その過程を説明したもの」が必要です。答えだけでは受け付けません。ワードなどワープロ文書、手書きの解答をデジカメで撮影した画像ファイルなどを電子メールに添付して投稿してください。皆さんの投稿をお待ちしています。